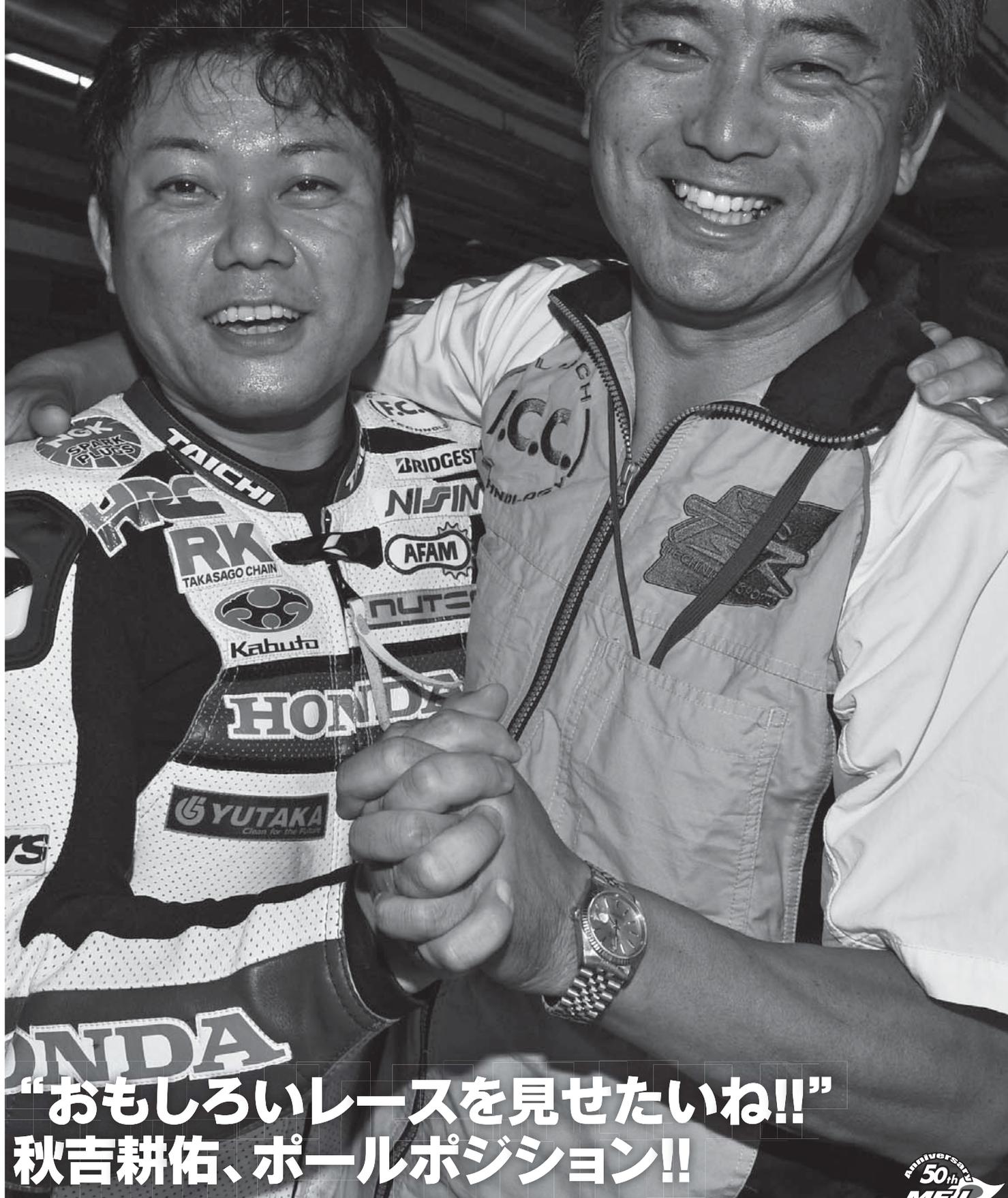


SUPERBIKE



KYUSHU 2011 PETRONAS ASIA ROAD RACING CHAMPIONSHIP Round.4
MOTORCYCLE FESTA 2011 2011 MFJ ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP Round.6
9.9[fri] - 10[sat] - 11[sun]

EXtra, EXpert and EXtreme
EXPRESS--



“おもしろいレースを見せたいね!!”
秋吉耕佑、ポールポジション!!



韋駄天・秋吉耕佑に死角なし!? 加賀山就臣、高橋巧もレコードをブレイク!! 諦めずにホームコースを攻める柳川明



何とか秋吉の連勝を止めたい加賀山就臣が2番手



好調をキープしている高橋巧。前回に続き秋吉を苦しめるか?!

JSB 1000 ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

シリーズ第6戦の舞台は、阿蘇の自然の中にあるオートポリス。今年は、6月上旬にST600とフォーミュラ・ニッポンの2&4レースがあったため、今回の第6戦は、ST600以外の4クラスを開催。そしてアジア選手権第4戦と同時開催となった。SS600クラスには、全日本ST600クラスを戦うライダーがワイルドカードで参戦している。

台風の接近で天候が心配されたが、進路がそれたため、金曜日、土曜日共に、ドライコンディションでセッションは消化された。JSB1000クラスでは、コースレコードも更新された。ブレイクしたのは、もちろん「韋駄天」と呼ばれる男だった。

ノックアウト方式で争われたJSB1000クラスの公式予選。最終セッションでは、まず加賀山就臣が、コースレコードを更新する、1分49秒507をマークしトップに立つ。その直後に秋吉耕佑が、1分49秒473をたたき出し逆転。これがトップタイムとなり、秋吉が2戦連続、今季3回目のポールポジションを獲得した。加賀山は意地を見せたものの、およばず2番手。3番手の高橋巧もコースレコードをブレイクし、1分49秒699をマークした。

「もうちょっとタイムを出せたと思うけれど、まずまずのタイムを出せたので満足です。安定して走れているし、アベレージは悪くないので、レースを引っ張れば引っ張るし、ダメなら後ろで見ているかもしれません。去年は、レースが(悪天候の為)できなかったので、九州でいい走りを見せたいですね」と秋吉。

一方、加賀山はポールポジションが獲れず、悔しい表情だった。「もう一歩だったんだけどね。オートポリスは、他のサーキットに比べて、絶対的に走行量が

少ないので難しいね。難しいなりに、そこそこまとまったので、決勝朝のウォームアップでもう一歩、セットを詰めて勝負したいね」と加賀山。前回SUGOでは、クラッチトラブルが発生してしまい満足いくレースができていないだけに、今回は、そのうっぴんを晴らしたいところだ。

3番手につけた高橋も好調をキープしている。「秋吉さん、加賀山さんが、予想以上に速かったですね。ボクもアベレージは悪くないので、課題としている、オープニングラップからのペースアップができれば、前回よりいいレースができると思います」と自信をのぞかせた。

4番手には、TEAM GREENの柳川明がつけた。オートポリスは、カワサキのテストコースだけに、いい走りを見せたいところだが、ニューZX-10Rのセットアップに苦戦しており、トップの3台にやや離されている状況だ。

オートポリスを得意としている徳留和樹が5番手に食い込んだ。徳留は、事前テストなしの、ぶっつけ本番で臨んでいるが、健闘し1分51秒782をマークした。「とりあえず一発タイムを出しましたが、アベレージは、まだまだです。オートポリスだから、このタイムがマークできたんだと思います。応援も多いし、頑張りますよ」と徳留。

満身創痍の中須賀克行は、何とか2列目に残った。9月1日の事前テストで転倒し、身体を痛めており、今回は「耐えのレース」となっている。本調子ではないものの、多くの応援を背にチェッカーフラッグを目指す覚悟だ。

7番手には、好タイムをマークした須貝義行が

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW

け、8番手に出口修、9番手にアブリリアを駆る須磨貞仁と続き、3列目に並ぶ。

予選までの流れを見ると、トップ3が抜きん出ている。中でも秋吉は、走り自体は豪快だが、安定して速く走れている。秋吉が逃げる可能性も少なくないが、加賀山と高橋が、どこまで対抗できるかによって、レース展開が決まってくるだろう。柳川もペースによっては、圧倒的なストレートスピードを生かし、トップグループに加わってくる可能性もある。エキサイティングな展開となりそうな決勝。18週のレースの結末は、如何に?!

[佐藤 寿宏]



Pole Position 秋吉 耕佑 1'49.474

「狙った通りのタイムを出せなかったのが残念でしたが、コースレコードを更新できたので納得しています。セットアップも進んでいるし、ボク自身の調子も悪くないです。レース序盤から逃げられれば逃げたいですが、出たとこ勝負ですね。運がよければ今回も勝てると思います」



カワサキファンの期待を背負う柳川明は4番手スタート



オートポリスで育った徳留和樹が健闘し5番手につけた

2011 PETRONAS ASIA ROAD RACING CHAMPIONSHIP Round.4

SS600 THE ASIAN GRAND PRIX

決勝レース1 結果

Pos	No	Rider	Time
1	24	Decha Kraissart	23'32.585
2	25	Azlan Shah Kamaruzaman	23'34.004
3	55	Hafizh Syahrin Abdullah	23'37.428
4	71	Yuki Ito	23'39.546
5	64	Toshiyuki Hamaguchi	23'42.245
6	52	Md Zamri Baba	23'42.332
7	11	Yusuke Teshima	23'43.502
8	22	Rick Olson	23'44.363
9	37	Katsuki Fujiwara	23'47.854
10	65	Chalermpol Polamai	23'51.385

※上位10位までを掲載しています。

QUALIFYING PRACTICE REPORT & INTERVIEW



とにかくぶっちぎりで
勝ちたい!!
中上貴晶が連続P.P.



Pole Position 中上貴晶 1'53.311

『目標タイムにコンマ2秒届きませんでした。GP250のコースレコードが53秒1なので、それを何とか破りたいと思ってセットアップを進めてきました。金曜日に思うようにいかず、事前テストのときにセットに戻して、アジャストしたら、うまくハマってくれた。アペラージュでもテストのときより速く走れているので、決勝では、GP250のレコードを更新して、前回の19秒差を上回る、20秒差で勝ちたいです』



うれしい初のポール
ポジションとなった
山田誓己



Pole Position 山田誓己 2'00.386

『目標にしているタイムには、遠く及ばなかったですけど、初めてのポールポジションなので、素直にうれしいです。頑張ってくれている藤岡さんを始め、チームの皆さんのおかげです。2番手以降もタイムがひしめき合っているんで、決勝では、自分でレースを組み立てて、勝つことができたらいいなと思っています』



- 予選・決勝開催日/9月10日(土)
- 天候・路面/予選(晴/ドライ)・決勝(晴/ドライ)
- 決勝レース/5周

RACE REPORT



写真上 超スプリントレースを激しい争いで制した#1ケンタ
写真下 優勝・藤井謙汰(中央)、2位:長島哲太(左)、3位:葛西雅迪

ケンタがGP-MONO
クラス今季初優勝!

スタート進行に問題があり、5周の超スプリントレースとなったGP-MONOクラス。

ディフェンディングチャンピオンの藤井謙汰が、長島哲太との一騎打ちを制し、GP-MONOクラスで今季初優勝を飾った。長島は、連勝がストップし、悔しい2位。3位に葛西雅迪(かっさい まさみち)が入り、初めて表彰台に上がった。

WINNER

優勝/藤井謙汰

『ピットスタートになってしまい10周のレースでどこまで追いつかれるか全力で攻めていました。そのときに"もう一回レースがあればいいのに"と思っていたら、赤旗が提示され、もう一度、予選順位から再スタートできたのは、よかったです。最初のレースでタイヤマネジメントを気にせずに走っていたので、5周といっても厳しかったですね。長島選手の後ろで焦っているのが分かったので、抜けるときに抜こうと思っていました』

GP-MONO

決勝レース結果

Pos	No	Rider	Team	Total Time
1	1	藤井 謙汰	F.C.C.TSR Honda	10'16.771
2	45	長島 哲太	Projectu7C HARC	10'16.796
3	16	葛西 雅迪	タニシ&Speed Heart	10'23.665
4	4	松井 洪幹	TEAM PLUS ONE	10'23.672
5	7	坪川 浩明	TEAM-MARGUERITE	10'24.225
6	2	小室 旭	TeamKOMUROwithHARC	10'24.240
7	50	鳥羽 蓮	チーム テック2 & TDA	10'24.365
8	14	山本 裕裕	広島カジャ Racing&LRC	10'24.452
9	9	伊藤 公一	IRT	10'24.544
10	75	古市 右京	ASPIRATION.A-next	10'24.769
11	3	谷川 杜洋	CLUB PLUS ONE	10'31.985
12	88	中本 貴也	18 GARAGE RT with モリワキ	10'32.939
13	23	高瀬 敬次	近畿スポーツランド マックウエスタン	10'33.690
14	25	岩本 有司	オールスターモーターズスポーツ	10'36.702
15	52	大塚 浩二	team RISKY	10'36.760
16	31	中村 正秀	RT☆グローリアベア&ENG.LH	10'40.675
17	10	江崎屋 学	犬の乳産園.JP/PRCS	10'40.780
18	21	橋元 晃一	Garage130R&Jr's	10'40.887
19	22	三好 菜摘	オールスターモーターズスポーツ	10'41.807
20	20	赤間 清	CLUB-HARC-PRO.	10'43.812
21	43	野村 翔	RSS☆SHOWA	10'43.891
22	99	中塚 潤太	テルル・ハニービーレーシング	10'48.026
23	44	林 祥由	TEAM TECHNICA	10'48.284
24	34	丸野 恒	チームいずみ&シャロムレーシング	10'50.280
25	62	佐々木 猛治	チームイズミ	10'54.436
26	49	後藤 満	キトキRT☆横倉自動車工業	10'56.344
27	64	今村 洋介	チームいずみ&Nothing	10'56.594
28	32	法月 多嘉夫	MARS&MEGA&RPベア	11'01.469
29	37	増田 顕也	クラブM+松田塾+顆RT	11'02.899
30	63	岩永 直		11'18.318

***** 以上チェック *****

***** 以上完走 (3Laps) *****

54	松尾 哲司	ヒガシEng&九州工業大学	2'11.336
11	畑中 要	FTR・タイヤナビ	2'12.165
82	Z.JORDAN	チームヨシハル K1 RACING	2'21.901
46	伊達 悠太	犬の乳産園.JP/プリミティブ	
Fastest Lap			2'02.460 (5 / 5) 137.403 km/h
優勝者			藤井 謙汰 / F.C.C.TSR Honda



- 予選・決勝レース1開催日/9月10日(土)
- 天候・路面/予選(晴/ドライ)・決勝レース1(晴/ドライ)
- 決勝レース1/12周

RACE 1 REPORT



デチャ・クライサルト優勝!!
日本人勢は伊藤勇樹が4位

FIMアジアロードレース選手権シリーズは、Moto GPと同じFIM公認の国際選手権レース。マレーシア・日本・インドネシア・インド・中国・カタルのアジア主要国にてシリーズ展開されている。日本大会は2009年からオートポリスで開催され、2011年はシリーズ第4戦となる。

開催クラスは現在、最高峰クラスのスーパースポーツ600(SS600)、アジア市場で浸透しているアンダーボーン115(UB115)の2カテゴリーで、木曜日にフリー走行、金曜日が公式予選、決勝レースは土曜日にレース1と日曜日にレース2がそれぞれ開催される。

今年はSS600クラスに7人の全日本ライダーがワイルドカード(WC)参戦。現在トップランカーの藤原克昭を初めとするレギュラーやスポット参戦する日本人ライダーも含めると、11人が参戦している。彼らの走りに注目が集まった。

予選では、ポールポジションの藤原から5番手の岡村光矩までを日本勢が占めた。決勝レース1では、大会直前に参戦が決まった大崎誠之が3番手からトップに立つと、好スタートの藤原、6月のオートポリス2&4でポールポジションを獲得したデチャ・クライサルトの3台が序盤のレースをリード。後続には4位争いで、鈴鹿4耐で優勝したアズラン・カマルザマン、津田拓也と伊藤勇樹ら(WC参戦)が続く。しかし、4周目の最終コーナーで大崎が転倒しリタイアすると、藤原をトップに、デチャ、アズランと追いついた津田の4台によるアジア勢vs日本勢の対決に変わった。

だが、レース終盤の9周目に入るストレートで藤原のマシンがスローダウンし後退、直後の1コーナーで津田も転倒し、デチャがトップに浮上。そのままチェッカーを受けた。2位にはアズラン、3位には後続で踏ん張っていた17歳の Hafizh Syahrin Abdullahが入った。日本人最上位の4位に伊藤、5位にはベテラン浜口俊之。

MFJ Superbike Round6 **SUPERBIKE RACE in AUTOPOLIS** 10-11 September 2011 公式予選結果



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走25台
●決勝スタート/14:45(18周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	1	秋吉 耕佑	F.C.C.TSR Honda	CBR1000RR	R1'49.474
2	71	加賀山 就臣	Team KAGAYAMA	GSX-R1000	R1'49.507
3	634	高橋 巧	MuSASHi RT ハルク・プロ	CBR1000RR	R1'49.699
4	87	柳川 明	TEAM GREEN	ZX-10R	1'50.856
5	54	徳留 和樹	Honda鈴鹿レーシングチーム	CBR1000RR	1'51.782
6	21	中須賀 克行	YSP Racing Team with TRC	YZF-R1	1'52.143
7	11	須貝 義行	チームスガイレレーシングジャパン	1098R	1'52.819
8	01	出口 修	エヴァRT初号機トリックスターFRTR	ZX-10R	1'53.068
9	55	須磨 貞仁	CONFIA HMF	RSV4 Factory	1'54.477
10	10	東村 伊佐三	RS-ITOH&ASIA	ZX-10R	1'55.038
11	41	首藤 和徳	シェイク&壁屋一家	YZF-R1	1'55.320
12	23	吉田 光弘	Honda緑園会熊本レーシング	CBR1000RR	1'55.593
***** 以上Qualify 3進出 *****					
13	15	戸田 隆	G-TRIBE	S1000RR	1'55.034
14	20	北口 浩二	クラウン警備保障RACING	CBR1000R	1'55.281
15	63	片平 亮輔	8810RwithMCR	CBR1000RR	1'55.342
16	19	藤田 拓哉	DOG FIGHT RACING・YAMAHA	YZF-R1	1'55.790
17	35	長崎 賢雄	ZOOM R.T.	CBR1000RR	1'56.375
18	70	鈴木 大五郎	KTM Racing	RC8R	1'56.438
19	76	村上 雅彦	チームムラカミ・ウッドストック	ZX-10R	1'56.756
20	18	久保山 正朗	Honda浜友会浜松工スカルゴ	CBR1000RR	1'56.773
21	22	原田 洋孝	RS-ガレージハラダ姫路!	ZX-10R	1'56.902
22	66	有田 裕二	チームシェイク	YZF-R1	1'57.103
23	79	高津 信行	ガレージカオス+うかれ亭	CBR1000RR	1'58.196
24	77	福島 智和	デークラフブレーシング	YZF-R1	2'02.275
***** 以上Qualify 2進出 *****					
***** 以下Qualify 1にて決定 *****					
***** 以上予選通過基準タイム (2'01.370 - 110%) *****					
78		田中 公司	グリーンズ・パーク田中RT	ZX-10R	2'02.086
Entry :25 Start :25					



●予選:天候/曇 路面/ドライ 出走27台
●決勝レース2スタート/13:30(12周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	37	Katsuaki Fujiwara	Manual-Tech BEET Kawasaki Racing	Kawasaki	1'56.514
2	71	Yuki Ito	Dog Fight Racing Yamaha	Yamaha	1'56.892
3	75	Nobuyuki Osaki	PETRONAS Yamaha Malaysia	Yamaha	1'57.099
4	12	Takuya Tuda	WestPower	Suzuki	1'57.106
5	23	Mitsunori Okamura	RSG PHOEBE & DREAM Kitakyushu	Honda	1'57.376
6	25	Azlan Shah Kamaruzaman	Boon Siew Honda Racing Malaysia	Honda	1'57.394
7	24	Decha Kraissart	Yamaha Thailand Racing	Yamaha	1'57.456
8	64	Toshiyuki Hamaguchi	Moto-Rev India	Yamaha	1'57.540
9	68	Sasuke Shinozaki	SP Tadao Racing Team	Yamaha	1'57.562
10	55	Hafizh Syahrin Abdullah	PETRONAS Syntium Moto Yamaha Raceline	Yamaha	1'57.708
11	65	Chalermpol Polamai	Yamaha Thailand Racing	Yamaha	1'57.786
12	22	Rick Olson	PETRONAS Syntium Moto Yamaha Raceline	Yamaha	1'57.877
13	181	Shu Sato	MST Tamiton-RW	Kawasaki	1'58.344
14	11	Yusuke Teshima	Team Suzuki Pilipinas	Suzuki	1'58.371
15	162	M. Fadli Imannuddin	Manual-Tech BEET Kawasaki Racing	Kawasaki	1'58.380
16	54	Toshitane Souma	Roadway Racing Team	Yamaha	1'58.576
17	7	Doni Tata Pradita	Yamaha Indonesia Racing Team	Yamaha	1'58.595
18	52	Md Zamri Baba	PETRONAS Yamaha Malaysia	Yamaha	1'58.659
19	82	Christopher Quinn	Yamaha Yamalube ASH TJM KYT	Yamaha	1'58.805
20	26	Ahmad Fuad Baharudin	Bike A.R.T-Kawasaki Racing	Kawasaki	1'58.893
21	53	Md Emir Firdaus Hasan	Boon Siew Honda Racing Malaysia	Honda	1'59.137
22	50	Ahmad Zamani Baharudin	Bike A.R.T - Kawasaki Racing	Kawasaki	1'59.631
23	81	M. Dwi Satria	Yamaha Yamalube ASH TJM KYT	Yamaha	2'00.339
24	20	Dimas Ekky Pratama	Yamaha Indonesia Racing Team	Yamaha	2'00.517
25	67	Krishnan Rajini	Moto-Rev India	Yamaha	2'00.647
26	69	Hiroaki Matoba	Roadway Racing Team	Yamaha	2'02.975
27	17	Md Hafieez Md Ali	PETRONAS Yamaha Malaysia	Yamaha	2'03.329

Minimum Qualifying Lap Time 108%=2:05:834



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走29台
●決勝スタート/10:25(14周)

Pos	No.	Cls.	Name	Team	Machine	BestTime
1	20	y	山田 智己	TEAM PLUS ONE	RS125R	2'00.386
2	8	y	山本 剛大	TeamNOBBY	NSF125R	2'00.497
3	5	y	渡辺 陽向	Projectu7C クルーズ	NSF250R [P]	2'00.536
4	7		徳留 真紀	TeamAlliance&HARC-PRO.	RS125R	2'00.549
5	2		菊池 寛幸	WHEELIE・KoharaR	RS125	2'00.559
6	18		安村 武志	チーム テック2	TZ125	2'00.652
7	12	y	藤井 謙汰	F.C.C.TSR Honda	NSF250R [P]	2'00.732
8	10		仲城 英幸	Projectu7C HARC	NSF250R [P]	2'01.109
9	73		小室 旭	TeamKOMUROwithHARC	NSF250R [P]	2'01.137
10	86		山本 武宏	MARINEコスモス+中川+G	RS125	2'01.380
11	1	y	大久保 光	18GARAGE RACING TEAM	RS125R	2'01.618
12	3		森 俊也	Team NOBBY	NSF250R [P]	2'01.796
13	25		高杉 奈緒子	モトバムwithヒポボタマス	NSF250R [P]	2'02.207
14	22	y	渡辺 ユキ	TEAM YUI	RS125	2'02.209
15	23		今中 満	team RISKY	RS125R	2'02.534
16	14		鎌田 悟	ENDURANCE+桶川スポーツランド	NSF250R [P]	2'02.735
17	45		岡田 義治	Projectu7C HARC	HP250RW [P]	2'02.846
18	24		大西 隼	Projectu7C HARC	RS125R	2'03.131
19	75		LINC GILDING	チームヨシナルK1Racing	NSF250R (P)	2'03.184
20	61	y	亀井 雄大	18 GARAGE RT with SAKURAI	NSF250R [P]	2'03.279
21	62	y	佐野 優人	SRS-J	RS125R	2'03.469
22	88		高木 伸一	チームライフ・ドリーム北九州	NSF250R [P]	2'03.597
23	46		岩田 吉正	BATTLE FACTORY	RS125R	2'04.355
24	76		濱村 京太郎	OSP Racing JRP	RS125R	2'04.359
25	58		松井 洪称	TEAM PLUS ONE	NSF250R [P]	2'04.467
26	71	y	数田 竜速	i-FACTORY&team hirock	RS125R	2'04.563
27	87		花房 将	ダリアレーシング 名人会 天歩	RS125R	2'05.255
28	29		川瀬 啓一郎	KOHSAKA&バックヤードガレージ	RS125R	2'05.563
29	27		大塚 卓也	HondaブルーヘルメットMSC	RS125R	2'07.129
***** 以上予選通過基準タイム (2'12.424 - 110%) *****						
※y=ユースカップ						
※[P]=プロト						



●予選:天候/晴 路面/ドライ 出走13台
●決勝スタート/16:00(16周)

Pos	No.	Name	Team	Machine	BestTime
1	634	中上 貴晶	MuSASHiRT/ハルク・プロ	CBR600RR	R1'53.311
2	2	山口 辰也	TOHO Racing	MD600	R1'54.592
3	41	宇井 陽一	41PLANNING/PRO-TEC	YZF-R6	R1'55.257
4	51	高橋 英倫	松戸フラッシュ&PLUS ONE	ZX6R	R1'55.317
5	15	関口 太郎	Team TARO PLUS ONE	TSR6	R1'55.384
6	77	稲垣 誠	伊藤レーシングGMD・アケノS	YZF-R6	R1'55.637
7	31	野佐根 航汰	ウエビックチームノリックヤマハ	YZFR6	R1'55.757
8	3	生形 秀之	エスバルスドリームレーシング	GSX-R600L1	1'56.299
9	99	野田 弘樹	テルル・ハニービーレーシング	CBR600RR	1'57.165
10	46	星野 知也	ミクニBeatテリ&カリー	GSX-R600	1'58.913
11	21	清水 直樹	MST☆TAMITON-R	ZX6R	1'59.185
12	10	中尾 健治	レイラスポーツ	YZF-R6	1'59.389
13	79	朝比奈 正	アサヒナレーシング	Z600	2'00.467
***** 以上予選通過基準タイム (2'04.642 - 110%) *****					
※Rマークは、コースレコード(従来のタイム 1'55.931)					

TV INFORMATION



今年も「MFJ全日本ロードレース選手権」全戦を放送! 全日本のタイトルを賭けたトップライダーたちの熱いバトルは必見! ディフェンディングチャンピオンである秋吉耕佑、シーズン前に好調さをアピールしていた中須賀克行はどのような走りを見せるのか!~ トップライダーたちの好走をお見逃しなく!

■第6戦~オートポリス~

9月19日(月) 20:00~22:00

9月21日(水) 深夜1:00~3:00

9月20日(火) 9:00~11:00

9月30日(金) 11:00~13:00

INFORMATION

SUPER GTがオートポリスに帰ってきた!

10.1 予選 2 決勝

SUPER GT 2011 SERIES SUPER GT IN KYUSHU 250KM

東日本大震災復興支援大会